

ぼむ・ぼむ通信

No.51

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



~ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金から~

ぼむ・ぼむ通信 51号

目次

ハイチ大地震 ~地震発生から一年がたちました~	1
世界の子どもたちは今 ハイチ	4
知っとこ。ユニセフ 「募金について」	5
生協のユニセフ支援活動	7
* 「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」募金に取り組みました！(みやぎ生協、鳥取県生協、コープぎふ、岩手県学校生協)	
* CO-OPコアノン スマイルスクールプロジェクト(いわて生協、市民生協やまなし)	
トピック	10
* 2011年度 第29回ユニセフ・ラブウォーク中央大会	

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料として活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。



ハイチ大地震 ～地震発生から一年がたちました～



© UNICEF/NYHQ2010-0080/LeMoyn



はじめに

1月12日、「ハイチ大地震」から1年がたちました。

水や食糧など、地震直後の緊急支援は成功しました。ところがその後、せっかく実現させた成果に追い打ちをかけるような新たな危機が次々と、ハイチに緊急事態を招いています。ユニセフは、ハイチで起きている事は「地震」だけでないことを、ハイチが抱えている根本的な問題への理解を世界に求めています。この国の復興を妨げる要因は、地震が起きる以前からの課題でもあり、それは緊急支援の対応以上の支援を必要としています。



ハイチ報告会が開催されました

1月7日、東京・港区にあるユニセフハウスに於いて、ユニセフ・ハイチ事務所の日本人職員・井本直歩子さんによる現地報告会がありました（インターネットで同時中継）。

映像で見るテントの仮設教室は以外と大きく、笑顔が戻った子どもたちの姿にほっとするも、暴風雨に襲われた学校はメチャメチャになっていました。トイレの後には手を洗うなどの「衛生教育」は広がり、メッセージも伝わっているようですが、トイレに水がないなど、実践することが本当に難しい環境であることを知りました。

この日の報告会で語られた内容は、昨年12月に井本さんから届いたお手紙からも伺い知ることができましたので、ここにその一部をご紹介いたします。

（ <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/haiti/2011.htm> ）



<井本さんからの手紙>

「暴風雨、そしてコレラ・・・」 12月9日付

(http://www.unicef.or.jp/kinkyu/haiti/2011_0111.htm)

師も走る師走。今年は例年よりも師走が早く過ぎていく気がします。8月にユニセフ・ハイチ事務所に移って以来、今年1月のハイチ大地震からの復興もままならない中、次々と襲いかかるエマージェンシー（緊急事態）に対応におわれた2010年後半でした。

9月24日、突然やってきて300余のテントを吹っ飛ばした暴風雨。10月20日から国中をひっくり返したコレラ、そして11月1週目のハリケーン・トーマス。さらに、12月8日は大統領選挙の第一次結果開票日。不正を抗議するデモで町は荒れていて、銃声が聞こえる中、今は自宅待機中です。

自宅で待機中でも、休んでいるわけにはいかないのが現実です。コレラの猛威は、私たちが治安上の理由で動けない間、さらに増していきます。10月中旬にアーティボニト県で発生したコレラは今では全国に広がっており、現在の感染者数は約3万5千人、死者は2000人と報告されています（注：12月24日現在の患者数は63,711人、死者は2,591人）。

川の水や、食べ物から感染するコレラ。症状は、重度の嘔吐と下痢です。人々は脱水症状になり、すぐに水分を補給できなければ死に至ります。訪れたコレラ治療センターでは、多くの人々が生気を吸い取られたような表情でベッドに横たわっていました。ベッドの真ん中には穴が開いていて、その下に排便用のバケツが置いてあります。患者の半分ほどは小さな子どもたちでした。「大丈夫？」と声をかけると、こちらを見て力なく、コクリと頷いてくれました。

ユニセフはコレラ治療センターとユニットを国内に70件以上設置し、治療にあたっています。またコミュニティの水の供給源におよそ4500万個の浄水剤を配り、さらに石鹼とポスターを配って手洗いの必要性を啓蒙しています。

私の所属する教育部門のエントリーポイントは、もちろん学校。ユニセフは全国およそ5000校で、150万人の子どもたちに浄水剤とバケツ、ポスター、石鹼を配り、学校に安全な飲み水を確保し、子どもたちがコレラ予防に必要な知識を理解し、実践するための支援をしています。ユニセフの支援している学校で、「コレラを防ぐのに大切なことは？」と生徒達に質問すると、「石鹼で手を洗うこと、浄水されている水を飲むこと、食べ物は煮沸した水で煮たものを食べること、トイレを消毒して掃除すること・・・」ときちんと答えてくれました。

ユニセフは全国の学校のうち、およそ20%の学校を支援していますが、まだ全国およそ1万校が支援を必要としています。そして、まだ多くの子どもたちが学校に通えないのも現実です。

（終わり）



© UNICEF/NYHQ2010-2659/LeMoigne



© UNICEF/NYHQ2010-2415/Dormino



「1周年レポート」の発表¹⁾

ユニセフは1月7日、報告書「ハイチの子どもたち：震災から1年 - 緊急支援から復興までの長い道のり」を発表しました。ユニセフは地震直後から支援活動を展開、その中で実現した成果と今後の課題を「1周年レポート」という形でまとめました。

ぜひ、ご一読いただき、ハイチを子どもにふさわしい国にするために、復興のプロセスの中心に子どもたちを据えることの大切さを知っていただければ幸いです。

1) http://www.unicef.or.jp/kinkyu/haiti/pdf/CHILDREN_IN_HAITI_jp.pdf



おわりに、

一年間お読み頂いた「ハイチ大地震」、ひとまず最終回といたします。振り返りますと、地震が発生した数日後には、全国の生協で募金の呼びかけが始まり、そのすみやかな対応がとても印象的でした。ハイチで起きている出来事も、世界の関心が他に移れば人々の記憶から、あっという間に消えてしまいます。子どもたちが数えきれない危機の中にいることさえもです。

忘れない！ということも大事な支援のひとつ。これからもよろしくお願ひいたします。



© UNICEF/NYHQ2011-0007/Dormino

ハイチ地震復興支援募金

郵便局（ゆうちょ銀行）

振替口座：00190-5-31000

口座名義：財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「ハイチ」とご明記ください。

*送金手数料は免除されます。

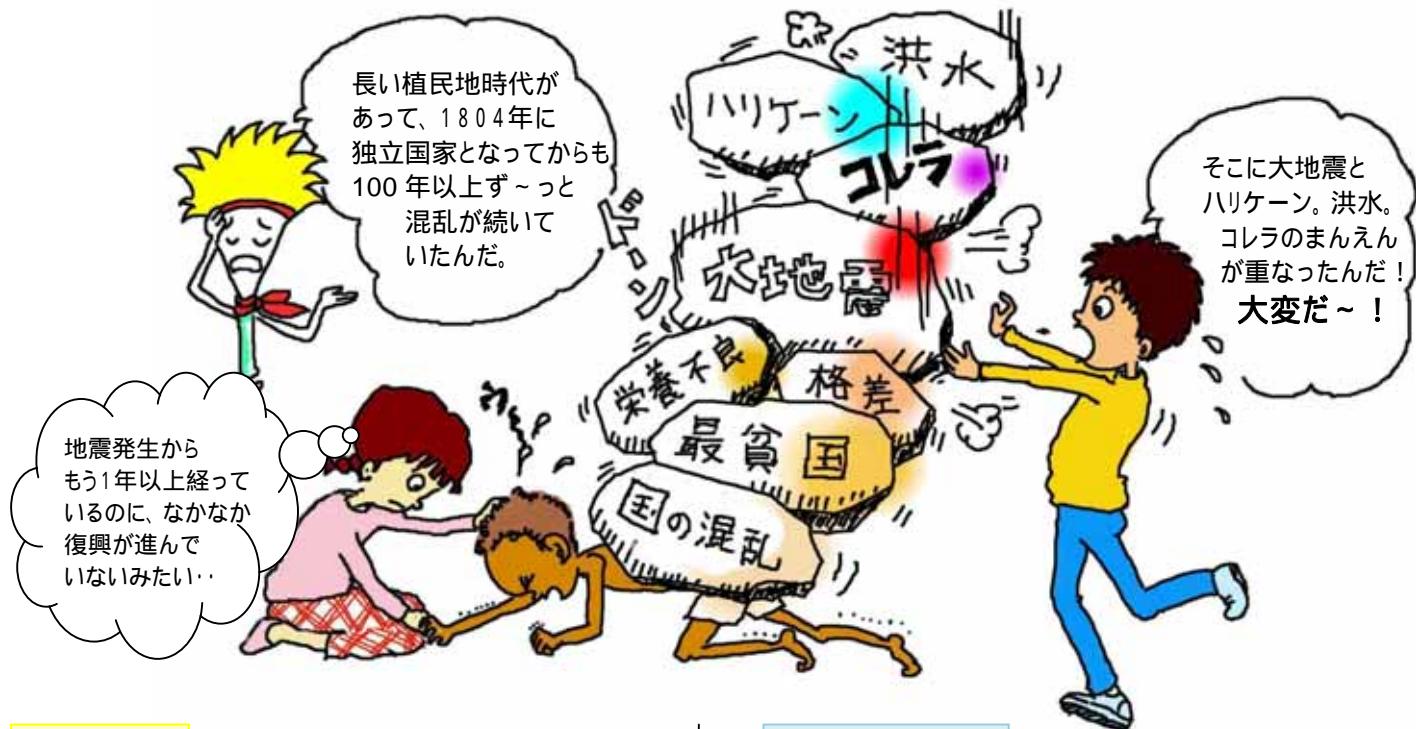


世界の子どもたちは今

ハイチ



去年（2010年）1月に起きた大地震で、22万人以上の人々が亡くなり、今も100万人以上の人々が被災者キャンプで暮らしています。そんな中、伝染病【コレラ】が発生し全国に拡大。2～3週間で数千人が死亡しました。さらに9月に暴風雨。11月にはハリケーン・トーマスが被害を拡大させてしまったのです。



なぜ…？

国が安定していないと、
支援がうまく
届かないんだ。



どんな時も…

ユニセフは「**子どもにふさわしいハイチへ**」を目指して着々と活動し続けているんだね。



さまざまな事を…

- 子どもの住民登録キャンペーン
- 人身売買、児童労働の阻止
- 「すべての子どもたちを学校へ」キャンペーン
- 教科書、授業料などの無料化へ
- 「子どものための空間」づくり
- 学校建設、めざせ200校！
- せっけん、浄水錠剤の配布
- 手洗い、トイレなどの衛生習慣の訓練。

困難を乗り越えて…

手を洗う「水」さえ無い所もあるけれど、病気の予防や衛生の「**情報**」を伝える事がたいせつなんだ。



問題は山積みだけど、
ユニセフの活動がこれからも
ずっと続けられるよう、
少しでも募金しよう！！

知りたい？ 知っとこ。ユニセフ 募金について ④

シリーズも最終回になりました。

今までのまとめと 募金の国内窓口である（財）日本ユニセフ協会をご紹介します。

国連機関であるユニセフとの関係 その役割をご理解いただき、協会より発信されている世界の子どもたちの様子、ユニセフの活動報告など 今後とも募金のゆくえに思いをはしていただけると幸いです。



Q なぜ募金が必要なのですか？

A ユニセフの活動は100パーセント 任意の拠出金と寄付によって支えられています。

政府からの拠出金と民間からの拠出金 2009年度の収入の内訳では その民間からの拠出金は28パーセントを占めていました。世界の子どもたちへの支援を途絶えることなく、続けるためには 活動を支える資金が必要です。みなさんからの 募金が欠かせないです。

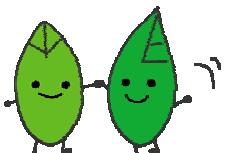


Q どんなことに使われているのですか？

A ユニセフ支援基準（5歳未満児死亡率 所得水準 子どもの人口）に基づき世界150以上の国と地域で子どもたちへの支援活動（保健・水と衛生・教育・栄養・保護）・・・たとえば、生命や健やかな生活を守ること、栄養の改善、安全な飲み水や衛生施設の普及、初等教育の普及、過酷な状況下にある子どもの保護、緊急救援などに大切に使われます。

みなさまから寄せられた募金は、日本ユニセフ協会を通じて、ニューヨークのユニセフ本部に送金され、ユニセフの活動資金として大切に使われます。

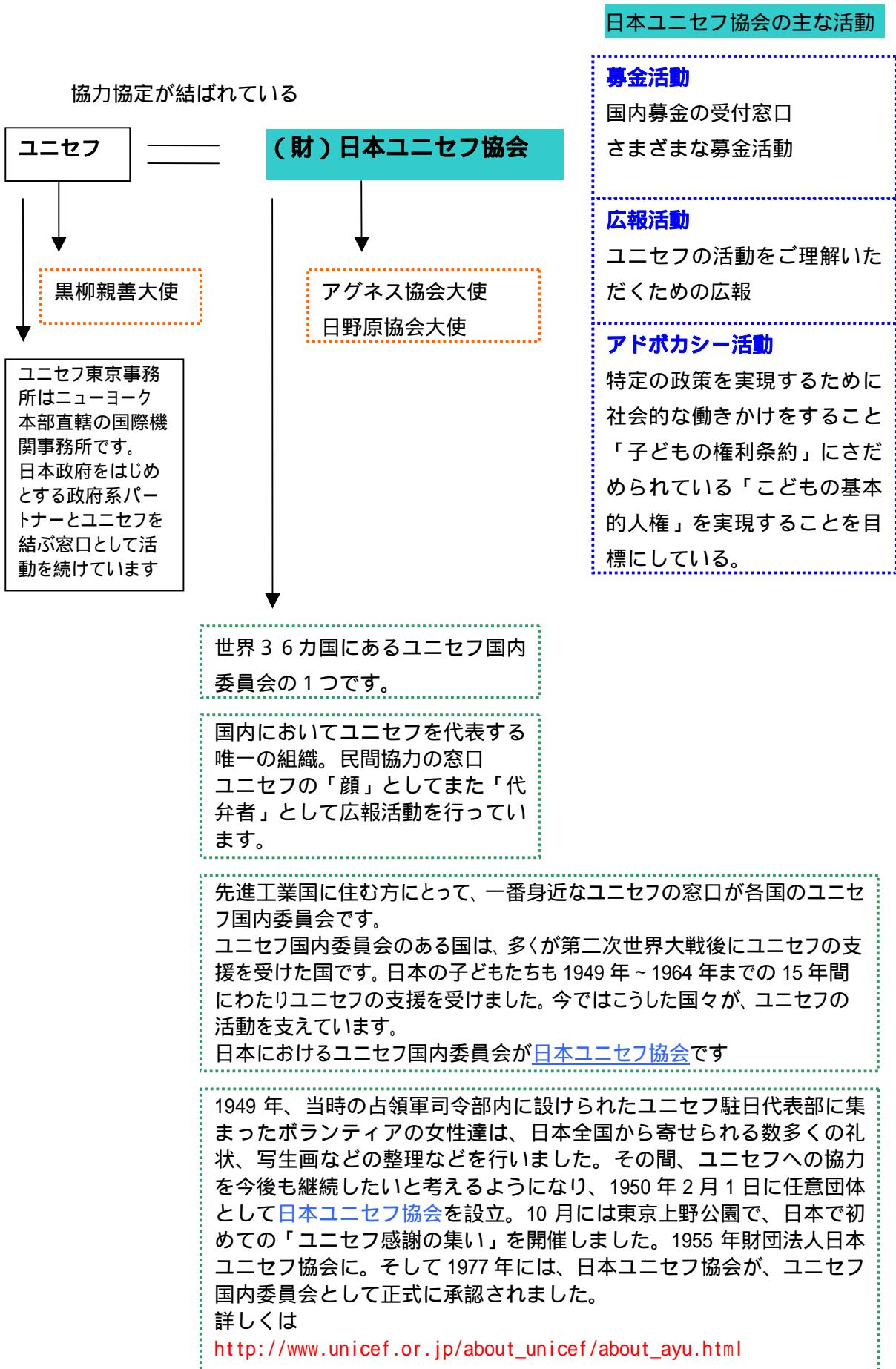
ユニセフ本部は、各国の子どもの状況に応じてユニセフ現地事務所に予算を配分し、ユニセフ現地事務所は現地政府などと協力しながら、子どものためのさまざまな支援活動を行っています



Q 募金にはどんな種類があって どんな方法があるのですか？

A 一般募金・指定募金・緊急募金があります。

募金の方法には まず街頭募金や募金箱に直接する募金が思い浮ぶとおもいますが、そのほかにもインターネット募金 マンスリーサポートプログラム（毎月口座より引き落とし）レガシープログラム（遺贈）外国コイン募金 またグリーティングカードやギフトを購入することでその半分が募金になる。という方法もあります。



生協のユニセフ支援活動 Partnership



みやぎ生協 ~すべての店舗で~

みやぎ生協では、例年ハンド・イン・ハンド募金に取り組んでいますが、今回初めて、すべての店舗で取り組まれました。担当の方にお話を聞きしました。

Q. 募金にあたって工夫されたところはありますか？

店舗のある地域のこ～ぷ委員会が主体となって取り組みました。他企画との同時開催や、カードの配布など多くの方に来ていただけるよう工夫しました。

- ・ 店舗の秋祭りと一緒に
- ・ サークルの発表会と一緒に
- ・ チャリティバザーを開催
- ・ ユニセフカードを販売
- ・ 募金いただいた方に手作りのカードと飴を配る



Q. 事務局ではどのような準備をされましたか？

必要なツールを準備し、事前に各委員会へ配りました。

- ・ ポスター、募金箱、リーフレット（ユニセフ協会から）
- ・ 生協ののぼり、横断幕
- ・ 店内放送用のサンプル文

お店の方に頼みやすいし、委員さんでも読めばいいので安心です

Q. 全店舗でやってみて、いかがでしたか？

工夫次第でいろいろなことができました。また、生協がやっている活動を、普段委員会等に関わらない方へお知らせできることもよかったです。初めて取り組んだ方多く、最初は声を出すことに抵抗があったようですが、「ご苦労さん」といったねぎらいの言葉で気持ちが暖かくなった、いろんな人の役に立てることができてよかったです、という感想が寄せられていました。



鳥取県生協 ~学習会と合わせて開催~

県内3ヶ所で開催し、44人が参加しました。各地区ごとに、学習会とセットで開催し、ユニセフへの理解がより広がるよう工夫しました。東部地区の取り組みをご紹介します。

ユニセフ学習会

ユニセフって言葉は聞いたことあるけれど・・・。ユニセフに募金をしたことはあるけれど・・・。12月6日(月)東部第2支所にてユニセフ学習会を開催しました。クイズなどを交えたエリア委員さんの説明やビデオなどでユニセフについて学習し、インドの紙袋作りや水がめを運び、世界で困っている子どもたちの実態を体験しました。



募金活動

12月18日(土)11時から12時まで、ジャスコ鳥取店店頭にて街頭募金活動に取り組みました。当日は寒い一日でしたが、大人15名、子ども8名の計23名の参加がありました。クリスマス前の活動で、沢山の方から募金をいただきました。



コープぎふ ~地域とともに~



2010年12月、県内18会場で実施しました(一部会場は11月に実施)。今年は、8会場で地元の小、中、高生、他の参加があり、これらの会場では地域の学校、団体または児童、生徒と一緒に取り組むスタイルが定着しています。

参加者数は会場増の関係もあり340名(昨年323名)、街頭・店頭募金額で計52万4893円(昨年48万7364円)の募金をお寄せいただきました。

また並行して実施しました「ハンド・イン・ハンドOCR募金」では、31万1800円の募金をお寄せいただき、街頭・店頭、OCR合わせて総額83万6693円の募金となりました。

各会場から寄せられた感想

- ・寒かったけど、役に立つことが出来てよかったです。
人に呼びかけるのが楽しかったです。(小学5年男子)
- ・小学生から、中学、高校と参加した子らが成長しても、毎年仲間を誘って参加してもらえるような、つながりが広がる取組みにしていきたいです。
- ・こどもも、おとなも、将来に向けて、貴重な経験をさせていただきました。





岩手県学校生協 ~若者の参加~



12月12日(日)、盛岡市内6カ所でユニセフでは年に一度の街頭募金活動「ハンドインハンド募金」が行われました。学校生協では、イオン盛岡(盛岡市前潟)の会場を担当、児童生徒69名と、岩手のヒーロー「マブリッドキバ」も参加し、学習と募金活動に取り組みました。イオン盛岡の取り組みに寄せられた募金総額は、「62,711円」でした。

参加した生徒さんの感想から

- 「募金活動に参加する立場になって、募金の大切さが改めてわかりました」
- 「ボランティア活動をして、伝えようとすればたくさんの人にその思いが伝わることが分かりました」
- 「募金してくれる人が多く、応援してくれる人が多いことが分かり嬉しかった」
- 「世界の子ども達のために、これからもこののような活動に取り組みたい」



この他、全国の生協で、ハンド・イン・ハンド募金に取り組まれました。

いわて生協、秋田県生協連と県内の生協、みやぎ生協、山形県生協連と県内の生協、コープあいづ、福島県南生協、パルシステム福島、コープぐんま、栃木県生協連と県内の生協、ちばコープ、コープかながわ、コープぎふ、コープあいち、おおさかパルコープ、おかやまコープ、鳥取県生協、生協ひろしま、コープかがわ、コープえひめ他

ご協力ありがとうございます！

CO-OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

2月20日までの募金額は、約299万円となりました。（目標募金額約1,000万円）

アンゴラに届くまで



いわて生協

店舗でユニセフボランティアの方がチラシを配布し、募金への協力を呼びかけました。



市民生協やまなし

地域別の総代懇談会で、DVD(日本生協連発行)を上映しました。



専用サイトでは、アンゴラ現地レポートを掲載中です！ <http://jccu.coop/unicef/smileschool>



2011年度 第29回ユニセフ・ラブウォーク中央大会



【趣旨】 これから1年間、全国で展開されるラブウォークに先鞭をつけて、ラブウォークに勢いをつける。特に子どもの参加を促し、ボーイスカウト、ガールスカウトを含め多くのボランティアのご協力の下に運営します。

【テーマ】 いっしょに歩いて考えよう！『安全な水と衛生的な環境』を

【主催】 日本ユニセフ・ラブウォーク協議会

【後援】 港区および港区教育委員会、文化放送

【協力】 日本ボーイスカウト東京連盟、ガールスカウト日本連盟東京都支部

【協賛】 記念品、飲料水を提供してくださる企業、計数社

【参加費】 大人 ￥500、子ども（18歳未満）￥200

【開催日時】 2011年4月3日（日）雨天決行 受付開始 9時
出発 9時30分（12キロコース） 10時（6キロコース）

【開催場所】 起点、ゴールともにユニセフハウス。

【コース】 12キロコース：

ユニセフハウス 柚榴坂 高輪公園 桂坂 泉岳寺 伊皿子坂 魚藍坂
新坂 有栖川宮記念公園 仙台坂 麻布十番商店街 芝公園 三田駅
本芝公園 田町駅 藻塩橋 芝浦橋 芝浦中央公園 品川駅 柚榴坂
ユニセフハウス

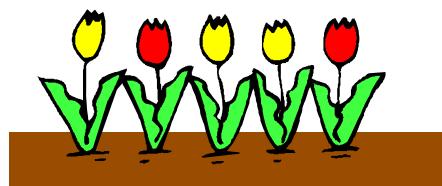
6キロコース：

ユニセフハウス 柚榴坂 高輪公園 桂坂 泉岳寺 伊皿子坂 聖坂
三田駅 本芝公園 田町駅 藻塩橋 芝浦橋 芝浦中央公園 品川駅
柚榴坂 ユニセフハウス

【募金贈呈など】 ウォーカーは12時から12時半ごろゴール予定。

12時30分募金贈呈式 12時40分景品配布開始 13時30分解散

12時より15時まで、展示見学（希望者のみ）



ぼむぼむ広場

編集後記

そもそも支援が行われている国や地域で発生した自然災害では、緊急復興支援の進捗状況に大きな影響が見受けられます。復興に時間がかかる程、徐々に人々の記憶から薄れ、概して脆弱な立場にある女性と子どもが厳しい状況に苛られます。多くの現場で継続して社会開発に携わるユニセフ。緊急募金を必要とする事態が発生しないことを願いつつ、一般募金の重要性に改めて気付かされました。@

ユニセフ*コープネットワーク

 ぼむぼむ通信

No.51 2011年3月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 相澤・尾澤・谷杉・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・谷口・朝倉

イラスト / 蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コープフサ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>

ぼむぼむ通信第51号をお届けします。

1年に渡ってお伝えしてきたハイチ特集はひとまず最終回となります。「世界の子どもたちはいま」と合わせてご覧ください。「知っとこユニセフ」は、募金に関するシリーズの最終回です。全国の生協では、元気にハンド・イン・ハンド募金に取り組まれました。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

次号は、2011年6月15日発行予定です。